

①

安心感・信頼感が —雰囲気と

②

得られるピアサポート 関係づくりー



6 グループ

今井伸枝
岸田信也
阿波連のり子

黒木恵子
石原八重子
田港 華子

ボランティア 多賀谷

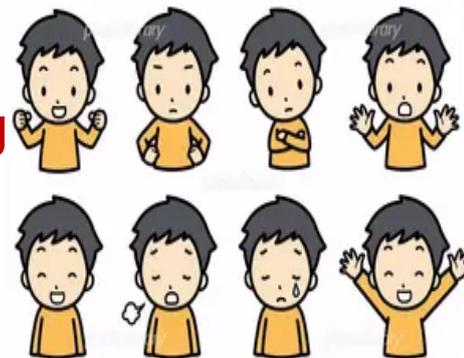


【はじめに】

ピアサポートの質の向上・継続するための
非言語と専門職との違いに注目した

ピアサポートの安心感・信頼感は何から伝わるのか

- 言語と共に呼吸を合わせる **非言語の力**
表情・雰囲気・服装等からの印象



- 自らの経験に基づく寄り添う力**

患者としての経験が距離を縮める

専門職にはない話しやすい雰囲気を作り出す

はじめに（解説）

疾病が良くなったり、悪くなったり、治療法がない難病や障がいと共に暮らしていく中で、疾病と共に生きることと同時に、その疾病と闘う気概も持ち続け、世界にその疾病を克服する条件を作り出すためには、ピアサポートの役割は、今後ますます社会から求められると感じている。

質の高いピアサポートは、何を伝えるかという言葉だけでなく、非言語(表情・態度・雰囲気・服装など)も大切に、ピアサポーターが相手と呼吸を合わせることも受容と共感を重ねる支え合いにつながっていると感じる。「居心地が良い」「また参加したい」と感じてもらえる場づくりが重要である。

一方、専門職との違いについて考えると「自らの病と向き合ったうえで寄り添おうとする者」と「専門知識を持ちながら寄り添おうとする者」の違いでしかないが、ピアサポートの強みとは何か。安心感 信頼感が得られるピアサポートの更なる質の向上の為に必要とされるものを見つける。

ピアサポーターの良さ・強味 専門職との役割の違い

豊かな出会い

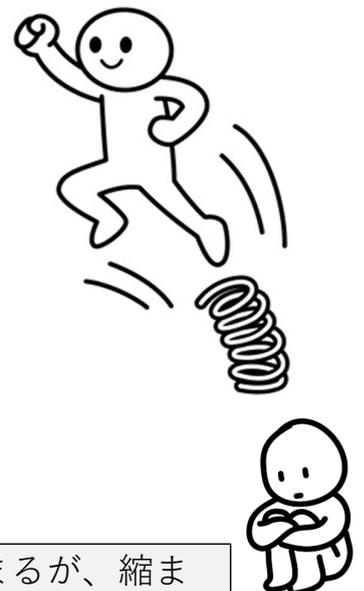
自分を受け入れ、前向きに変える人々との出会い

病の苦悩から変容へ

病と向き合うことから生き方が変わる

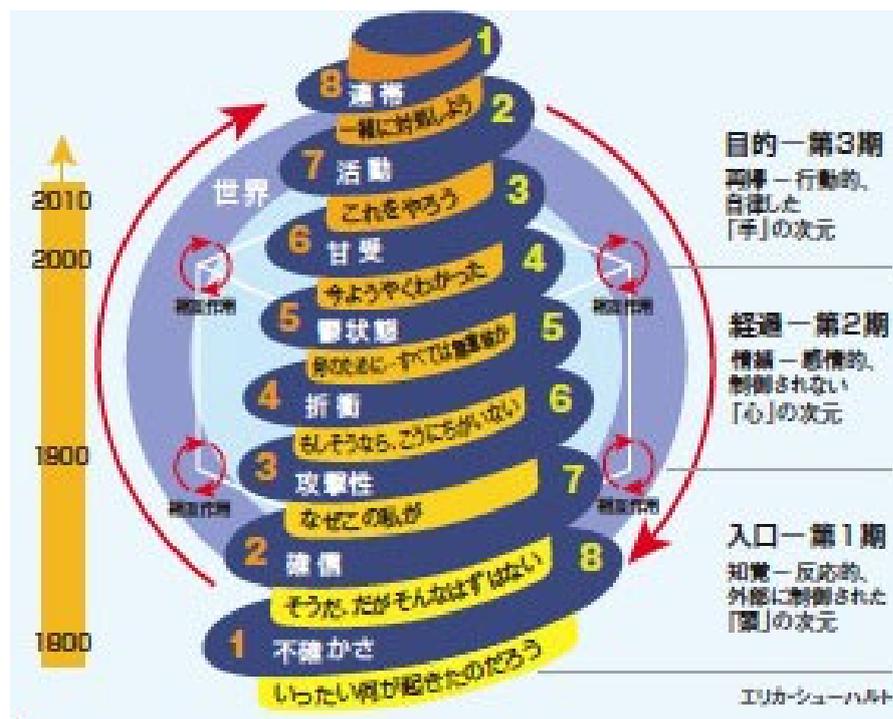
自己犠牲と新しい生き方

レジリエンスを高める相互的なサポート



レジリエンスとは、物体がぶつかった時、その瞬間は縮まるが、縮まりが戻った時に『縮まる前よりも伸びる』性質から、「困難を乗り越える力」、「状況に適応する力」と訳される。

ピアサポーターができること



VHO-net WS第8回「難病を乗り越えていく」
(図 魂のらせん階段 文献2) p.83より改変

ブレイクタイム

こんなピアサポートは嫌だ!!

テッテレッツレ〜♪



頭ごなしに言う人
妙に励ます人

「皆がんばっているから
あなたも、がんばんなさいよ」

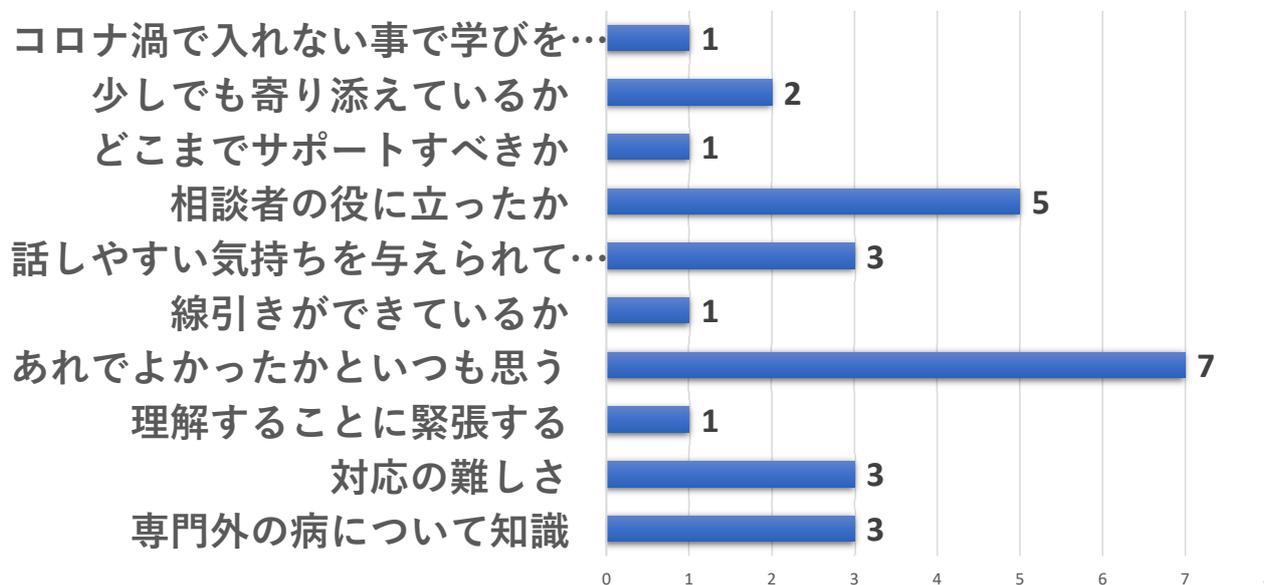


自分の経験を長々と話
す人



あなたはいいわよ
人と比べる人

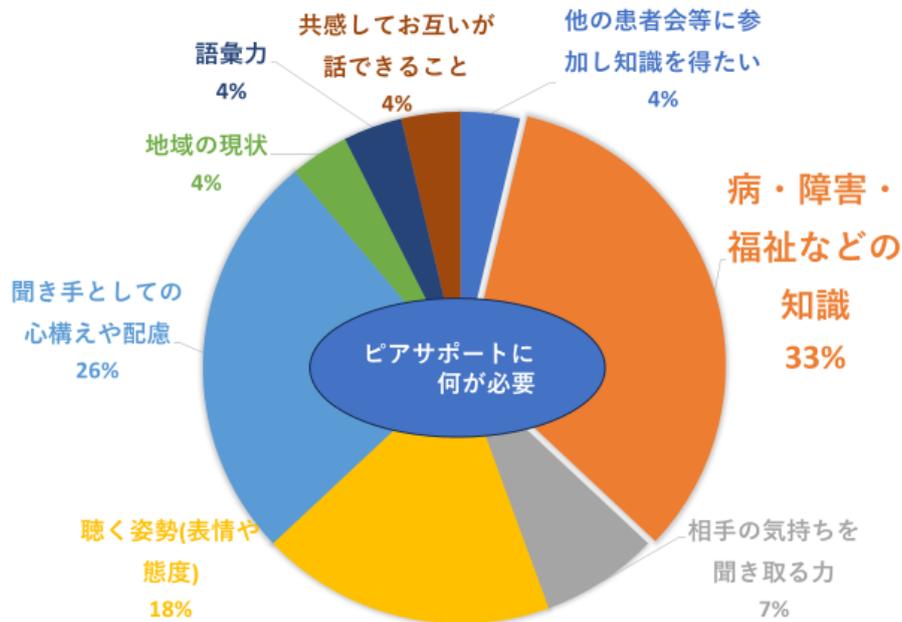
ピアサポートでの不安なこと



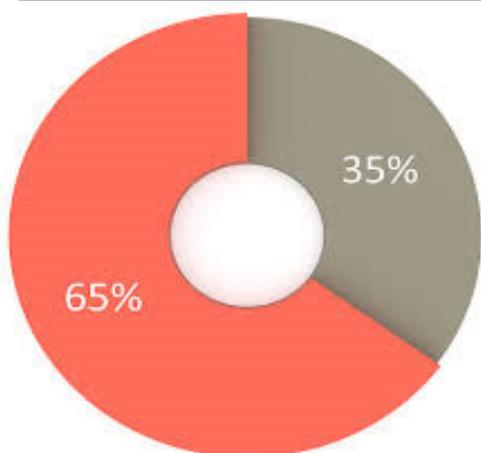
ピアサポートしている人へのアンケートから

ピアサポートで得たもの





非言語コミュニケーションの重要性

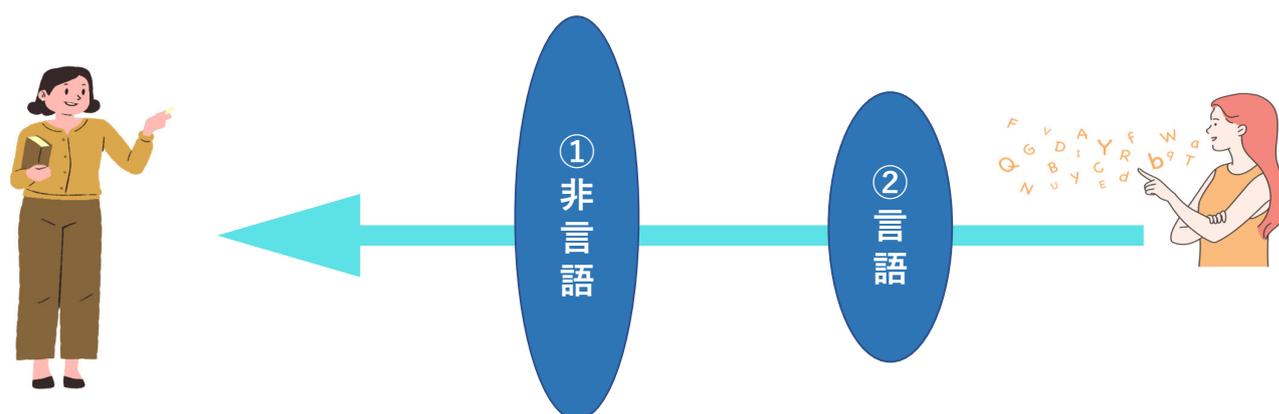


二者間の対話において言葉によって伝わるメッセージは全体の35%残りの65%が、非言語コミュニケーションにより伝達されたとしている。

非言語とは
人体・動作・目・周辺言語・沈黙・身体接触・対人空間・時間・色彩・声(トーン等)

非言語コミュニケーションは、社会科学の研究分野のひとつである。簡単に言うと、言葉以外によるコミュニケーションのことだ。

非言語コミュニケーションの研究者、レイ・L・バードウィステルは、二者間の対話において、ことばによって伝えられるメッセージは全体の35%にすぎず、残りの65%が非言語コミュニケーションにより伝達される、としている。



非言語コミュニケーション研究者 レイ・L・バードウィステル

【結論と考察】

- ・共感し合えるピアサポートの場を作るサポート (学ぶ)
- ・レジリエンス (弾む力) (その人が持っている回復力) を高めるサポート



難病ピアサポーターの職業化
難病ピアサポーターは必要とされる仕事だ

社会に向けてメッセージを発信し続けなければならない
たとえば、RDD2024ではポスター展示



厚生労働省でも実施を目指す

頑張るぞ！！ オー！！

